

# 4月の道内景況 情報連絡員レポート



## 全業種 DI 前月比で全て低下 物価高騰の影響続く

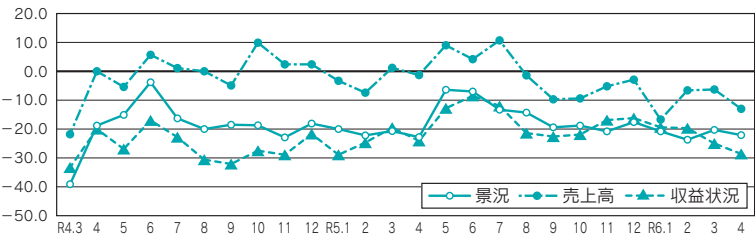
### 概況

前年同月の比較では、「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てが低下している。

3月から4月の推移でも、「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てが低下している。

情報連絡員によると、製造業では、発注に対する問合せが増えてきているとの報告がある一方で、物価高騰による消費者の買い控えから、販売数が減少して消費が落ち込んでいるとの声が寄せられている。非製造業では、インパウンドは増加したものの、一般客は減少したほか、物価高騰により収益が圧迫され、改善が見られないとの報告があった。

主要 DI の推移



### 景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比
業界の景況	☁️ △20.3	☁️ △22.1	△1.8 ↘	☁️ △23.8	☁️ △24.0	△0.2 ↘	☁️ △18.6	☁️ △21.2	△2.6 ↘
売上高	☁️ △6.3	☁️ △13.0	△6.7 ↘	☁️ △19.0	☁️ △4.0	↗	☁️ 0.0	☁️ △17.3	↘
収益状況	☁️ △25.0	☁️ △28.6	△3.6 ↘	☁️ △29.0	☁️ △24.0	↗	☁️ △23.3	☁️ △30.8	↘

(凡例) 30以上 10~29 9~10 11~29 30以下

	全業種			製造業			非製造業		
	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比
販売価格	☁️ 26.6	☁️ 24.7	△1.9 ↘	☁️ 19.0	☁️ 24.0	5.0 ↗	☁️ 30.2	☁️ 25.0	△5.2 ↘
取引条件	☁️ △4.7	☁️ △7.8	△3.1 ↘	☁️ 0.0	☁️ △4.0	↘	☁️ △7.0	☁️ △9.6	△2.6 ↘
資金繰り	☁️ 0.0	☁️ △11.7	△11.7 ↘	☁️ 0.0	☁️ △16.0	△16.0 ↘	☁️ 0.0	☁️ △9.6	△9.6 ↘
雇用人員	☁️ △14.1	☁️ △16.9	△2.8 ↘	☁️ △9.5	☁️ △12.0	△2.5 ↘	☁️ △16.3	☁️ △19.2	△2.9 ↘

**天気図の見方** 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(DI)をもとに作成。天気表示は凡例のとおりです。

### 製造業

#### 食料品

- 組合員全体的に大きな変化なし。
  - 沖底船については、水揚げ量が少ない状況。(網走)
- 販売価格が上がり、売上高は増加しているが、消費者は物価が値上がりした分、食費を節約して買い控えているため、販売数としては減っている。また、物流の問題で荷物が動かず、配送遅れ等で製造のストップに繋がってしまった、在庫を抱えることになった。業界としてはコロナ以前の景況にはまだまだ戻れていない。(全道)
- 味噌出荷量(道内) : 単月(令和6年3月) 前年対比 81.5%
  - 累計(令和6年1月~3月) 前年対比 88.9%
- 醤油出荷量(道内) : 単月(令和6年3月) 前年対比 88.7%
  - 累計(令和6年1月~3月) 前年対比 92.9%
- 味噌出荷量(全国) : 累計(令和6年1月~2月) 前年対比 97.7%
- 醤油出荷量(全国) : 累計(令和6年1月~2月) 前年対比 99.9%
- 令和6年3月の道内単月の出荷量は、前年対比、味噌・醤油共に大幅に悪かった。
- 令和6年1月~3月の道内累計出荷実績も、味噌・醤油共に3月の出荷減少に大きく影響を受けた。
- 味噌の原料である国産米及び外国産米の価格上昇傾向(円安の影響も大きい)、並びに国産米の入手困難な状況に変化なし。包装資材価格上昇の報道もあり、先行きは厳しい。(全道)

#### 木材・木製品

- 4月期のトドマツ原木の工場への入荷は、前月期同様、順調に推移しており、落ち着いている。市況については、在庫が不足している状況にはなく、弱保合で推移している。また、国有林材のトドマツ一般材については、オホーツク、道央圏、道北圏では複数の応札があり、活発な動きが出てきている。一方で道南圏については、不落が続き出口が見えない。特に道南スギについては、全く動きがなく、供給過多となっている。原料材については、3月まではFITの影響から安定かつ高値安定で推移していたが、この4月については価格が下がり始めている。
- 3月期のカラマツ原木については、出材量が少ないものの、順調に推移している。市況についても弱保合で推移している。
- トドマツ製材市況は、先月に引き続き、景気後退等の影響により、新規住宅需要が前月に比べ減少していることから、受注は減少している。産業資材も減少傾向で推移している。価格は弱気配~保合の状況にあり、カラマツラミナについても、減少傾向で推移している。また、市況はカラマツ、エゾ・トドマツは弱気配が見込まれる。紙原料は不足気味で、原料材価格が上昇しており、原料の取り合いが全道的に見られている状況であるが、国内チップ買取価格の上乗せはなく、希望価格にはほど遠い状況が続いている。木質バイオマス原料については、順調に集荷されており、価格も高止まりの傾向から、下がり気味で推移している。
- 道内製材業界は、主力製品である梱包材・パレット材のオーダーが大変厳しい状況にあることから、一昨年から上昇した電力料金や各種諸資材、航送料金の値上げなどを、製材品価格に反映させることなく、自助努力により吸収してきたが、そのような中、トラックドライバーの労働時間規制が施行され(2024年問題)、各輸送業者からは、これまでに例がないほどの値上げ要請があり、これ以上のコストアップを各製材工場が吸収することは不可能であると判断しており、具体的な対策が急務となっている。新年度に期待している。(全道)

- 昨年の年度初めより受注減少が始まり、ほぼ1年が経過するが、未だに改善の兆しは見えない。
  - ・ 運賃の値上げは実施され、賃金アップも実施することから、1日も早い需要の回復を望んでいる。(十勝)

#### 窯業・土製品

- 4月の生コン出荷量はおよそ208千m<sup>3</sup>。(前年同月比115.1%)
  - ・ 地域別には、前年同月を上回った分は27分会中13分会で、前年(増加は8分会)を上回った。前年同月と比較して、増加したのは千歳、道南、小樽など。一方で、減少したのは札幌、室蘭、北東十勝などであった。
  - ・ コンクリート舗装の普及拡大を期待する。(全道)
- 函館地域等では、現時点で北海道新幹線開業延期の影響は見られず、新幹線延伸工事を中心に砂・砂利の需要は安定している。
  - ・ 昨年と比べて砂利の販売価格は上昇したものの、燃料費の高止まりや人件費上昇などの影響を受けており、依然として収益が上がらない状況が続いている。(全道)
- 今年度は前年同様の需要数量で設定しているが、前年同月対比45.2%で低下している。販売価格は、4月より2,000円値上げして打ち出している。(室蘭)

#### 一般機器

- 一部の組合員は半年先まで受注予約があるが、多くは原材料・電気料金高騰の影響で価格転嫁があまり出来ず、今一つ仕事の動きが良くない状況。
  - ・ 国内経済の活性化には早急な景気対策や円安対策、恒常的な所得税や消費税の減税と、社会保険料配分見直しを望む。電気料金の国の補助期間延長・補助金額拡大、ガス・灯油等の燃料も補助実施が必要。大企業並みの中小企業の値上げには、価格交渉に経費上乗せ分の義務付けなどの対策が必須となる。(札幌)
- 今後は持ち直し傾向になることが期待されていたが、新幹線延伸整備の先延しなどに伴う事業量減少が、地方にも間接的に影響を及ぼすことが懸念される。(帯広)
- 4月に入り、問合せや受注数が増えてきており、動きが出てきている。観光客は増えてきているが、それが経済活動に結びついていない。為替の安定を期待する。(全道)

#### その他

- 前月報告した値上げについては状況の説明にとどまっているが、輸送費や副資材、原材料等の値上げ、労務費の継続的な上昇を考えた時、ぜひ実現したい問題である。また、輸送の問題では発注から納品までのリードタイム延長を検討する動きが出てきている。このことにより地方のユーザーは益々不利な状況となり、疲弊するのではないかと考えられる。(全道)
- 造船向け鋼材の価格が、主原料等のコストアップを理由に1万円/トンの値上げとなり、15万円/トンの高値に突入り、収益に影響が出ている。
  - ・ 新造船受注量の増加で、函館造船向けブロック制作が進んでいる。土曜休日返上で、作業が続いている状況で、人手不足が深刻になっている。(室蘭)

### 非製造業

#### 卸売業

- 雪解けが急速に進んだことで、靴や生活雑貨等の季節商品の売上が大きく伸びた。
  - ・ 市内の再開発建築工事が進み、オフィス機器の売上も順調に伸びている。
- 資材価格・仕入価格上昇分の転嫁が進み、収益は改善されているが、価格上昇に伴い消費者の行動は慎重になっており、在庫が増加傾向にある。
- セミナーや展示会の開催が増えており、貸会議室・展示室の需要は旺盛で、

- 料金の相場は上昇傾向にある。(札幌)
- 当組合における各会合の話題としては、人材確保や賃上げに関するものが最も多く、他の会社との情報を参考するなど、大企業の賃上げ率UPを尻目に、各組合員は苦慮している状況。(帯広)
- 令和6年4月期の当組合賃付高は仲卸、荷受1,409,949千円(税抜)で、先月の3月期末実績1,412,269千円(税抜)より2,320千円ほど減少した。
  - ・4月は、年度切り替えによる稼働日数の減少により、僅かながら3月に比べて減少したと思われるが、大型連休における需要を見越して買い控えになったと思われる。
  - ・4月末日より大型連休に突入するが、市場の開市日数も少なくなるため、見通しについては不透明である。
- 電線・ケーブルの銅単価が高値で推移し、中国等の景気相場に連動している。(全道)

## 小売業

- 前年比較
  - 物販 97.0%
  - 金融 100.3%
- ・今年に入ってから不調が続いていた家電が108%と好調で、次いで病院が114%・海外売上121%・旅行が139%と前年より増加した。一方で、4月前半の気温の低い日が続いた影響からか、春物衣料の需要低迷により衣料関連が前年比86%と減少したことが響き、全体では前年割れとなった。(旭川)
- 会議所が3月の大型店とスーパーの売り上げ状況を公表した。前年同月比6.0%増、食料品の売上が約7%増と大幅に増えた。土・日曜の回数が前年同月より多かった事や、物価高騰が続いている事に加え、野菜の高値などが影響したと分析している。大型店は3.4%増、スーパーは7.0%増で、全店で前年実績を上回った。中でも食料品は大型店が7.4%増、スーパーが7.1%増だった。特にスーパーは昨年4月以降の伸びとなった。今年は土日が前年より各1回多かった。会議所は、野菜が本州の主力産地の天候不順などの影響で全般的に高値だったことも売上増加に繋がったとしている。ただ、昨年閉店した百貨店の穴は依然として埋まっていないことが分かる。ネットや管外への流出は戻らないと思われる。(帯広)
- 加盟店の売上については、全体的に売上が現状維持または減少傾向にあり、収益面も悪化している事業所が多い。当会の販売促進事業は実施しているものの、加盟店の売上増加に効果的に寄与できていない状況。地域イベントや町の交付金を活用したイベントの実施を控えていることから、売上増加に期待したい。(新ひだか)
- 観光客は戻ってきているが、平日に一般客が少ない。年度変わりで出費が多いため、総購入金額が少ないとの声もある。月末特売日では、価格が安い日にまとめて買い物する地元客が多く来場していた。午前11時頃まで、1時間に20~30人ほどの買い物客がいる状態だった。(小樽)
- 4月の取扱高は、前年同月比99%の状況。天候に恵まれ桜の開花も例年より早まった状況で、景気が上向きになることを望んでいたが、結果的には売上が伸び悩む状況となった。観光地はインバウンド顧客を含む団体旅客で賑わいがあり、今後の景気に期待したい。(苫小牧)
- 人口減少や節約のため、販売数量、金額が共に落ちている。エネルギー業界は厳しい経営状況にある。(稚内)
- 新年度となった4月だが、物価高の影響からか、売上は前年を下回ったという声が多く、収益にも影響している。4月後半にはクルーズ船が入港し、多くの外国人を目にした。インバウンドの回復傾向を実感しており、和装を扱う組合員店では、小物を購入する方も見受けられた。
  - ・旅行業は、急激な円安を受けて海外ウエディングを断念するなど、海外旅行は敬遠気味で、それが国内旅行に振り替わったわけでもなく静かな月となった。携帯電話販売業は横ばい、保険業は店舗を移転し、来店型のショップとしてスタートを切った。旅行、携帯電話販売、保険を同一店舗のワンフロアに集約させ、連携した業務運営に取り組んでいる。(釧路)
- 4月に入り天候も回復し、一気に自転車店が動き出したが、例年よりも勢いが弱い。
  - ・新車販売が落ち込み、修理・点検の依頼が増えている。(全道)
- 「名探偵コナン」の映画最新作で函館が舞台となる「100万ドルの五稜星(みちしるべ)」の上映がスタートし、作中のロケ地を散策し楽しむイベント「函館まち巡りスタンプラリー&フォトスポット」に、函館朝市も組み込まれ、週末を中心にパンフレットを持って来た来場者で大いに賑わっている。
  - ・新年度のクルーズ客船入港が11日にスタートした。今月は10回の入港があり、全て函館朝市の目の前の若松埠頭に寄港した。おかげさまで、連日、欧米圏を中心としたインバウンド観光客でエリア内はごった返していた。
  - ・最大10連休となる今年のGWの前半は、桜が例年より早く開花したこともあり、昨年同様にあまり極端な混雑もなく、むしろ分散された利用となり、経済的には良かったと感じる。(函館)
- 魚の入荷が不安定で、旬の毛ガニも価格が昨年の倍になるなど、全体的に原価が上がっている。冷凍品の価格が上がり、利益が狭くなっている。
  - ・大企業の賃金が上がっているが、中小企業は少しでも上げると利益・売上共に厳しい状況で、現実には経営を圧迫している。(道央)
- 売上高24,000,000円 前年比104%の実績。値上げに伴い、客単価が上がっている。(札幌)
- 4月は大型客船が4回入港し、外国人が賑わいを見せた。GWも始まり、観光客の来店が多かった。
  - ・和商の日には70周年記念事業としてマル得袋を販売し、大盛況だった。
  - ・新規出店が1店、増店が2店あり、空き店舗も少しずつだが埋まった。(釧路)
- AV機器の売上が伸びなかったことで、全体の売上が減少している。しかし、昨年の曇りの経験から、エアコンの早期取り付けが増え、売上を伸ばす要因になっており、期待が持てる。
  - ・カーボンニュートラルのエアコン、冷蔵庫等の消費者向けキャンペーンを北海道が展開することを期待する。(全道)
- 4月の中東原油価格をみると、月初から右肩上がりで推移し、一時は1バレル当たり90ドルを超える水準となった。その後も一進一退の動きで、月間を通して80ドル後半の高値で推移した。この間、北海道におけるガソリンのSS店頭小売価格については、政府の燃料油価格変動緩和対策事業により、1リットル175円程度と前月と同水準で推移した。また、4月の全国ベースでのガソリン出荷量をみると、前年に比べ月間を通して減少が続き、依然としてコロナ禍前の水準を下回っている。なお、燃料油価格変動緩和対策事業により、石油製品のSS店頭小売価格は高値ながらも引き続き安定した価格で推移するものと思われる。(全道)
- 中小企業では、社員を募集しても応募者がなく、人材確保に苦慮している。

・春作業を前に、機械の点検整備を受注している。農家ユーザーは、新車よりも中古の農業機械を探している様子。(全道)

## 商店街

- 4月共通駐車券の利用は、前年同月比118.1%、買物共通バス券は、前年同月比194.1%。
  - ・大手百貨店閉店の影響は一巡し、共通駐車券の新規参加店もあったことから、利用は前年比超えとなる。(帯広)

## サービス業

- 全国レベルでの地質調査業界の昨年度契約総額は前年度に比べると微増であったが、北海道域においては数%程度の減少であった。令和6年度の公共事業費は前年度並みと予想されており、そのような状況の中で、資材・消耗品・燃料費・人件費が増加しているため、当然ながら収益への悪影響が懸念されている。
  - ・2018年に一般財団法人国土地盤情報センターが設立され、社会資本であるこの地盤情報(地盤柱状図及び試験データ)を全国規模で集約・管理運営が行われており、令和6年度能登半島地震でも石川県の地盤情報が災害復旧支援として緊急公開されている。参考にしていただきたい。(全道)
- 燃料用重油の高値安定、営業用に係る光熱費、消耗品等については値上げの傾向であり、状況は良くはない。営業努力で持ちこたえている。
  - ・令和6年度当初の組合員数は、全道で104、札幌で28となった。(全道)
- 大手企業の今春闘での賃上げ率が5%以上の大幅な伸びになるのは確実だが、業種を問わず深刻な人手不足を背景に激しい人材争奪戦が続いている。業種や企業ごとの賃上げの優劣が鮮明になり、企業が選ばれる時代になってきている。同時に、人材の流動が激しいと言われる情報通信業界も、人材確保のためには身を削ってでも賃上げせざるを得ず、道内中小IT企業でも人手不足への対応や離職防止のために、初任給の大幅引き上げや若手・中堅社員の処遇改善の動きが目立っている。道内一般企業も技術人材の確保に積極的で、半導体工場の建設やデータセンターの進出がさらなる拍車をかけており、IT企業最大の経営課題である「人材不足」が解消できる道筋は2024年も見逃せない状況が続く。(全道)
- 宿泊込客数は、前年比252名減少の97.9%。海外客は増加したが、道内・道外客は減少した。特に道内客の減少が続いている。(十勝)

## 建設業

- 原材料費及び人件費の増加は続いており、収益への影響が生じている。また、雇員不足による事業への影響が出ており、新たな事業獲得が難しい状況にある。
  - ・4月からの働き方改革の対応に苦しんでいる。(札幌)
- 官庁工事は、各官庁とも令和6年度の工事発注予定がWEB上にアップされたところだが、予想通り前年比でかなりの増加。特に、蛍光管製造終了によるLED化促進、猛暑対策としてのエアコン導入、太陽光等の地球温暖化対策は、政府の補助金が今後約4年で終了と期限があるので、先送りできない事情があり、発注過多になる懸念がある。また、防衛省も「国土強靱化」方針で今後10年の設備投資が4倍になるとのこと。補助金やこれらの予算をもう少し長い年数にしてみれば、今後4年程度の発注過多の問題はいくらか解消されると思う。業界と各官庁にて意見交換しながら、地場中小業者が取り組めるような発注方法を要望している。官庁側も入札不調で予定物件が先送りになることを、相当懸念している状況。当然、業界側として、資材費・人件費・諸経費などの高騰を価格転嫁していただくことと、余裕のある工期設定や「週休2日工事」などを要望し、ある程度は、業界側の意向を反映していただくような風潮もみられる。
  - ・民間工事も、大型再開発、インバウンド増加関係、小売店の再構築、情報関連設備、温暖化対策など、引き続き発注量の増加が見込まれている。建設費が高騰して計画の中止・延期が増えることを予測していたが、VE(品質を維持しつつコストを抑えること)等によりコスト削減しながら計画自体は遂行するなど、建設投資の増加が鈍化していくような兆候はみられない。
  - ・半導体製造工場の工事も、それに伴う様々な工場関係、流通施設関係、住居や店舗関係など、特に札幌、北広島、恵庭、千歳、苫小牧を結ぶ道央圏への過度の集中が懸念される。
  - ・本年4月より施行の「残業時間上限規制」について、官庁工事で「週休2日型工事」導入の本格化があり、民間工事で、ゼネコン業界に「週休2日」に出来るような現場運営」を強く要望してきて、今後の改善(土曜日の現場閉所など)が注視されることだが、3月に入っても、あまり変化がないような状況である。「働き方改革」は最重要課題なので、引き続きゼネコン側に要請していく予定である。(全道)
- 【組合員の業況】
  - 名寄市の令和6年度事業は、例年規模の見通しである。公共事業として、今月16日に量水器取替工事、23日には老朽管更新工事が発注された。
- 【問題点】
  - 水道スマートメーターの導入が、一部地域を対象にスタートする。機種を選定や入札方法など、未だ不透明な状況にあり、これからスマートメーターの設置に関する対応の協議(行政説明)がなされると考えられる。
- 【地域の実情】
  - 当地域におけるコロナウイルス感染に収束が見えず、他の地域と比べ罹患率は高い状況となっている。4月の異動時期を迎え、歓迎迎会も通常通り行われている。(名寄)

## 運輸業

- 前月同様運賃物が減少傾向にあることから、稼働は減少した。更に、当地では餌工場の稼働停止も影響している。また、相変わらずの人手不足で、ドライバーは常時募集されている。(小樽)
- 2024年4月から労働時間の短縮が求められるため、運賃は上昇傾向だが、諸物価の高騰により荷動きが悪い。また、燃料価格の高止まりや、賃金のベースアップにより、収益は改善しない。
  - ・農産物の収穫量は悪いと思われていたが、4月以降、一部の地域でイモの動きが活発になった。(全道)
- 農産物については、昨秋の収穫量が悪かったため、前月同様に荷動きは良くない。
  - ・一般カーゴについても荷動きは良くない。連休対応のためか4月後半は荷動きが活発化した。
  - ・4月以降「物流の2024年問題」に対して、各社運賃の値上げ要請が増えていく。(石狩)
- 売上高は、前年同月比21.77%減少。
  - ・乗務員数は、前年同月比1.9%減少。
  - ・3月分チケット取扱高は、前年同月比11.61%減少。(旭川)